

【タイトル ヒーローになりたい！】

【01 遠足帰りの小学生 上空に UFO】

大山遠足の帰りでした。突然上空に UFO があらわれました。佑真君たち生徒は大騒ぎです。

【02 電話口の母親 誘拐される佑真】

佑真君のお母さんに、学校の先生から電話がかかってきました。

「(先生)たいへんです。うちの学校の子供が誘拐されました。お子さんは無事ですか？」

「(母) ええ？佑真が誘拐された？」

「(先生) どの子が誘拐されたかわからないんです。佑真君は帰って来てますか？」

「(母) わ、わかりません、いま探します！」

【03 UFO の中】

お母さんたちは大騒ぎで子供たちをさがしましたが、子供たちは UFO の中でのおんぴりくつろいでいました。UFO の中には、子供たちの大好きなゲームや遊び道具がいっぱいあって、それに美味しいお菓子が食べ放題だったからです。子供たちは時間を忘れて楽しい時間を過ごしていました。そのうち、なんだかぼんやりしてきて、なんでここにいるのかわからなくなってきました。

【04 ドージ星 満員電車】

「(佑真くん) あれ？なんでこんなところにいるんだろう？」

佑真君が気が付くと、いつのまにか、満員電車の中のにっていました。

「(佑真) あれ？みんなどこに行ったんだろう。ここは知らないひとだらけだ」

佑真君は急に怖くなりました。友達がいらないだけじゃなくて、どんなに思い出そうとしても、自分の名前がわからないのです。

「僕はだれだっけ？僕の名前はなんだっけ？どしよう？なにも思い出せないよ！」

【05 ドージ星 電車が鬼の口の中に入っていく】

佑真君の乗った電車が、大きな鬼の口の中に向かっていきます。ところがみんな携帯の画面ばかり見ていて気が付きません。

「(佑真) やばいよ！このままだと食べられちゃう！みんな、なんで黙ってるの？やばいよ、早く電車を停めないと！」ところが、ヘッドフォンをしているので、佑真君の声は聞こえないのです。

「(佑真) わーっ！！飲み込まれる！」

【06 ライコー現る】

その時、ライコーが現れて、佑真君を助け出してくれました。ライコーが刀を抜くと、ピーカー！ものすごい光が放たれました。鬼がまぶしくて目がくらんだスキに
「(ライコー)佑真君！こっちだ！」

【07 UFOに乗っているライコーと佑真】

「(佑真)それ僕のこと？」

「(ライコー)佑真は君の名前じゃないか。やれやれ、自分の名前まで忘れるとはな」

「(佑真)なにも覚えてないんです。そのカタナ、すごい武器ですね」

「(ライコー)ドージキリのことか？ドージはあの鬼のことだ。ドージを切るから、ドージキリ。」

「(佑真)カッコいい！僕もヒーローになって誰かを助けたい！」

「(ライコー)ヒーローになりたいのか。よし、それなら今から君の故郷に行こう、最強のヒーローに会いに！」

「(佑真)ええ？僕の故郷に最強のヒーローがいるの？」

「(ライコー)ワシが逆立ちしてもかなわない、強くて優しいスーパーヒーローだ」

【08 大山のふもと】

「(ライコー)ほら、あの山をごらん。見覚えはないかい？」

「(佑真)あ、知ってる、なんだっけ、え〜と、だ、だ、・・・大山！」

「(ライコー)呼び捨てはよくないな。「大山さん」だ。一番すごいヒーローだ。」

「(佑真)え〜？大山がヒーロー？」

「(ライコー)大山さんのおかげで、みんなが守られて、豊かにらせるんだ。さ、いっしょに手を合わせて拝もう」

【09 湧き水】

「(佑真)美味しい！

「(ライコー)全国でも指折りの名水だ。米子の水道水もほとんど消毒がいらぬのは、大山さんの伏流水だからだ。蛇口をひねれば、ほぼミネラルウォーターが出てくるなんて、世界から見たらどれだけ珍しいことか。」

「(佑真)へ〜、そうなの？」

「(ライコー)お風呂や洗濯にもフツーに使うだろ？それを聞いたら、世界の人がひっく

り返るほどびっくりして、なんてゼイタクなんだ！って心底うらやましがるよ。」

「(佑真) へーっ。そんなにすごいなんて、知らなかった。」

「(ライコー) それだけじゃない。水が美味しいから、野菜も美味しい、牛や豚や鶏も美味しく育つし、海でも、海産物が美味しくなる。みんな大山さんのおかげじゃないか。はは〜ん、君は当たり前だと思って、これまでぼんやりしてたな。それでドーゾに食われそうになったんだ。ヒーローになりたいなら、まず大山さんを良く知ることだ。やっつけるだけがヒーローの仕事じゃないぞ。そうだ、ワシのヒーローに会いに行こう。この近くのはずだ。いっしょに探してくれ。」

【10 たたら製鉄 磁石、玉鋼、刀鍛冶】

「(佑真) ライコーさんのヒーロー？」

「(ライコー) 名刀ドーゾキリを作った人だ」

「(佑真) なんていう人ですか？」

「(ライコー) ヤスツナさんだ。佑真君は砂鉄を知ってるかい？」

「(佑真) 砂鉄？ ああ、磁石にくっつく、黒いやつでしょ？」

「(ライコー) そうだ。あれだ。大山のふもとを流れる川から出る砂鉄は最高品質なんだ。それを集めて溶かして玉鋼（たまはがね）をつくる、それを叩いて鍛えて作ったのが、このドーゾキリだ。鉄の芸術品。できてから 1000 年以上たつが、どんなに科学技術が発達しても、いまだにこれ以上の刀はできない。」

【11 弓ヶ浜半島】

「(佑真) あっ！ 弓ヶ浜だ」

「(ライコー) 砂鉄を採るために、山を崩して砂を川に流した。それがたまってできたのが弓ヶ浜だ。そうだ！ ヤスツナさんは、この弓みみたいに反った地形を見て日本刀の形を思いついたのかもしれん。もともと日本の刀も世界の他の剣（つるぎ）と同じでまっすぐの形だったんだ。それをヤスツナさんが反った形にした。そのせいで、折れにくくて、曲がりにくく、そしてとんでもなくよく切れるようになった。ほら、あれをごらん、浜に波が打ち寄せているのが見えるだろう。左側、中海のほうだ。

日本刀には刃紋がついているが、きっとあの波打ち際をイメージしたに違いない！」

【12 大山の前に立つ二人】

「(佑真) 日本刀、僕も欲しい！ 敵をやっつけたい！」

「(ライコー) 刀はやっつけるためのものではない。自分や、大切な人を守るためのものだ。ホントに欲しいなら、ヒーローになりたいなら、その覚悟を身に着けることだな」

「(佑真)覚悟？覚悟ってどんな？」

「(ライコー)誰かを守ろう、誰かの役に立とうと思う、強い気持ちのことだ。覚悟がないと、逆に鬼に食われてしまうぞ。さっきみたいにぼんやりとしてちゃな。」

「(佑真) 誰かを守ろう、誰かの役に立とうと思う気持ち・・・」

「(ライコー) 君にとって大切な人は誰だ？その人は、その人の役に立つにはどうしたらいい？」

「(佑真) 僕にとって、大切な人・・・え〜っと、え〜っと」

【13 現代の米子市、ぽつりと立っている佑真、遠くで母が見つける】

「(佑真) あれ？ここは・・・米子。そうだ、思い出した、僕の街だ！」

その時、お母さんが走ってやってきました

「(母) 佑真！ここにいたの！よかった！」

【14 佑真を抱きしめる母、きょとんとする佑真】

「(佑真) お母さん、心配かけてごめんなさい。ライコーさんに助けてもらったんだ」

「(母) ライコーさんって誰？」

「(佑真) あれ？ライコーさん、どっか行っちゃった。ヤスツナさんに会えたかな？」
お母さんは急いで携帯電話で学校の先生に連絡します

「(母) 先生ですか？帰ってきました！佑真は無事でした！はい！ありがとうございます！ありがとうございます！」

佑真君はお母さんの様子に、帰って来てホントに良かったと思いました。そして、いつか心配ではなく、お母さんがホントに喜ぶことをしたいと思いました。おしまい。お話はここまで。(拍手)

佑真君はいつかホントのヒーローになれるのでしょうか？みなさんはどう思いますか？